
世界の改変やろうか？

味噌王子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の改変やろうか？

【Nコード】

N7222N

【作者名】

味噌王子

【あらすじ】

異魔神の子が色々やる話し。

麻帆良へ

「我は、数多あまたの世界を渡りし魔神なり。
我が忌むは歪み…。」

この、魔力満ちる世界は歪み、自ずと砕けるだろう…。
我が忌むは歪み…。
歪みは正さねば…。」

>>魔法界<<

何の前触れもなく魔法界に振動が走る。

「ゴゴゴゴ!!」

>>メガロメセンブリア<<

「大変です！魔法消失現象が魔法界全域で発生してます！」
「>完全なる世界くのしわざか？」
「わかりません、
現在調査中です！」

……突然の静寂。

「ん？振動が収まったようだな……。」

「……………」

誰もが空を見上げている……。

「空が青い…。」そう、魔法世界には空がないのだ。

空の代わりに雲の様な物が、成層圏の高さ位に世界を覆っているのだ。

「クルト様。

信じられませんが学者たちの報告によりますと、旧世界の火星と融合したようです。」

突然現れる白髪の少年…。

「僕達の計画が丸潰れだね。」

「アーウェルンクスか……。」

「そして…、僕達は火星に閉じ込められた…。」

「……！旧世界いや、地球へのゲートはどうなっている？！」

「確認します！」

「……全て使用不能だそうです。」

それと…火星全体に、認識阻害のような力が覆っているそうです。」

「我々は宇宙を渡る力が無いから、火星から出ることは出来ない。地球からは只の火星にしか見えない。」

……現状維持だな。」

「それじゃあ僕はこれで。」

どうやら世界全体の魔力が薄くなっているみたいだよ。
市民は混乱しているんじゃないかな？」

「全世界にこのとをリークしろ！！」

「ハッ！」

>>??>><<

「俺は…誰だ？ここはどこだ？」

「お前は我が分身。」

異魔神の息子だ。」

「異魔神？」

「我は世界を渡る魔神、異魔神と呼ばれている。

我は歪みを嫌い安定を好む。

この世界に渡つてきてすぐに力を使ったが、まだ歪みがある。

それは人の心……。

羨望、嫉妬、憎悪、の感情を建て前で覆い、無理に押さえ込んでいく。

そこで、お前に人々の心の歪みを正して欲しい。お前には、私の力の全て劣化して与える。

それと、コミュニケーションをとりやすくなるように、強いカリスマとフェロモン、創生の力と無敵の戦闘力と、異世界の技能と技術を与える。

子^{えにし}を成して世界を満たすもよし。

縁を増やすもよし。

好きなようにいきるがよい。

永久の命だが、二十歳で身体を固定させよう。

お前の人生を好きなように歩むがいい、オサム・グリーンヒル。」

俺が生まれて十年もの月日が流れた。

俺はかなり欲望に忠実で、女好きになっていた。守備範囲は十二歳から四十代までだ。

……俺が産まれて一年後に、父は又世界を渡つたようだな。
あばよ親父、俺はこの世界に、子孫を残しまくるぜ！！

ここは埼玉県の麻帆良学園都市。

ここには、世界中の歪みの結合体>真なる影<が集まる>世界樹<がある。

そういえば、ここに来る途中で>アリカ<と言う、行き倒れの女性を拾った。

三十代のようだが、自分の名前以外をきれいさっぱり忘れているみたいだ。

拾ったてまえ、性魔術で精気を分け与えて回復させる。

性魔術で解った事なのだが……記憶封印の呪詛をかけてある……、多分ナギだな。

ナギ達>紅の翼<とはN G Oで組んだことがある……。

こんな良い女……俺が手を出さない訳がないだろう？美女だし、何よりもあのツンデレ具合がいい！

あのギャップに墜ちない男はいないだろう。道中何度も美味しくいただきました……あははっ……避妊するの忘れてたー!!。

世界中を旅して、ニューカレドニアを水晶玉の中にコピーした俺は、水晶玉の中に小さな世界を創世した。

ここに今、アリカが暮らしている……只今教育中だ！

しかし、何で恋女房をすてたんた？

まるで自分を忘れて、新しい人生を送って欲しいみたいに……失敗してパーになってるけど。

この世界にはエンジンがなく、代わりに俺の創造したポニーぐらいの大きさのチョコボが、最高時速八十キロで走っている。

大人一人にチョコボ一羽で生活していて、貨物用に二羽引きのチョコ

コ引き車、魔力駆動大型ヘリ、子供の通学用に魔力駆動バス、観光用の魔力駆動飛行バス、等がありエコだ。

住民は全て俺が創造した魔法人間で、歳をとらなくて主である俺に絶対服従をしている。

四国位の広さな為、移動用の魔法陣と転移先の書いてある立て札がいたる所に置いてあり、道に迷うことはまず、ないのだ！

また、子機があれば世界中どこからでも、ここに來る事ができ、南国を満喫することができる。

話を戻す…。

俺は麻帆良に着く前に、京都の近衛詠春のもとで数年暮らしたっけな。

詠春の娘と、刹那って半妖の娘と仲良くなっただし。

そうそう、木乃香ちゃんだっけ？…と刹那ちゃんと、ディープキスをしてるのを詠春に見られて、腹を刺されたっけ…。

木乃香が麻帆良に行く時、思いつきり泣かれたな。

西洋魔法使いを憎んでる、天ヶ埼千草ちゃんと毎日セックスして、麻帆良に行く前日に妊娠が発覚。

「この子が居るから、怨んでいる暇ないし、もう…うち独りやない

…だから…行つて…」

…初めて女に泣かれてかなりこたえた…。

そんなこんなで学園長室に向かっている……。

どこだここ？

とりあえず、長髪でスタイルのよい母性溢れる容姿の女性に話しかけた。

「君はここの生徒かな？」

学園長に会いたいのだけど、案内してくれないかな？」出来るだけ
ほがらかに話しかけた。

「良いですよ。」

女子中等部に学園長室がありますから、一緒に行ったほうがいいで
すね。」

名前は那波千鶴と言うらしい。

俺のこと、彼女のことを話しながら歩いて行く。「ここです…。」

「那波さん、ありがとうね…。」トアノブに手をかけ彼女に振り向
くと、ドアが開き彼女の方に押し出され、唇が触れてしまった。

眼鏡をかけた男性教師が謝り去って行った。

「那波さん？」

真っ赤だ。

「千鶴で良いです。」

「千鶴、ありがとうね。次に会ったら何か御礼をしようかな。」

…デートしようか？」

「はい！」

「冗談でいっただけで良いの？」

「それで良いです。」

…あの、目を閉じて下さい。」

「こう？」千鶴が首に腕を回してキスをしてきた。

キスが好きな俺は千鶴の舌を絡め取り、口内を舌で愛撫しまくった。

「ん！…んんっ…んん…ん…！」

五分程で千鶴は達したようだった。

「千鶴、またね。」

学園長室に入って千鶴と別れた。

（オサムさんのキス、素敵だった…。

あっパンツ、着替えなきゃ…あれ？膝に力が入らない。とにかく壁
に手をつけてでもここから動かなきゃ。）

再会

「オサム・グリーンヒルです。」

目の前の仙人にとりあえずの挨拶をした。

「ほおっ婿殿から話は聞いてきおる。」

ドタドタと足音が二人分近づいてくる。

「お爺ちゃんオサムさんの気配がするけど!？」「そういえば、木乃香ちゃんは気配に敏感だったなあ…。」

「これこれ…二人とも、静かに来れんのか？」

「オサムさん!!」

飛びついてくる二人を抱き止め、再会のディープキスを交わす。久しぶりのディープキスにへたり込む二人の少女。

「木乃香、刹那、綺麗になったね。」

幸せそうに呆けてるふたりは、自然とこぼれる俺の笑みに、溶けてしまっんじゃないかと思えるくらいに全身をくねらせている。

「住まいと仕事の世話を頼まれたのじゃが……おぬし、なにができる？」

「オサムさんは、神鳴流を修得してます!」
と刹那。

「オサムさんは、うちに魔法を覚えてくれたんえ！小学校の勉強も見てくれたえ。」

と木乃香。

「……これを解けるかの？」

出された大学入試問題を五分で解き終わり、学園長が答え合わせをしている間に、二人と仮契約した。

「全問正解じゃ……おぬし、教師にならんかの、いやなれ。」
強制かよ！

「お爺ちゃん無理やりはいかんよ！」

「1-Aの担任になつて貰いたいのじゃが？」

「「やったあー！！」「俺と居れるのが嬉しいのか、学園長の頭をベシベシ叩いてる。」

「それとも、夜の警備を頼みたい。関西呪術協会や、はぐれ魔法使いの一般人攻撃を防いでほしいのじゃ。」

「それは構わないが……もらう物はもらいます。
高いですよ？」

学園長との交渉の結果、一般教員の1.5倍の給料と警備を一月三百万円に決まった。

「住む場所の提供と、破格の給与と警護の固定報酬に、学園内の行動の自由と、こちらからの不当に干渉しない……
かなりの好条件じゃと思うのじゃが？」

恋愛の自由も追加してもらい、三年おきに更新する事で契約を交わした。

「ほ？契約の魔法を使うのかの？」

「この契約を精霊に誓う」

>> 契約<<

「用心深いのだ…。さて、オサム先生は明日から1ーAの担任教師を
してもらおう。

教員との自己紹介は明日行うとして、今日は1ーAに顔見せと買い物や、住む場所の確認に忙しいだろうからもう、上がってもよいぞ。あつそうそう、今夜に警備の顔見せを行うからの、念話のチャンネルを開けておくように。

…肝心な住む場所じゃが、ここに空き家が在るから自由に使ってかまわんど。」

地図をもらい、空き家に向かった。

隣にはログハウスが建ってるが……気にしたら負けのような気がする…。

人払いの結界を張り、隣のログハウスよりも三倍の大きさのログハウスに絶対防壁を張る。因みに、敵意のみに反応して自動で展開します。

さて、買い物に行きますか……。

しかし麻帆良は広いな…世界樹がないと道に迷うぞ、絶対。

きよろきよろしながら歩いていると…

「また会いましたね…?」

可愛い千鶴だ…。

「んんっんっ…。」

思わず抱きしめて舌を絡めてしまった。

「んっ…もう…。」

あの約束覚えてます？」

「もちろん…よし！」

千鶴、買い物デートに行こう！」

「買い物ですか？…」

え？先生になつたんですか…。」

満面の笑みを浮かべて俺と歩く千鶴。
手をつなぎ、あれからの事を話した。

始終にこにこしてた千鶴：そこまで好かれると男冥利に尽きるな、
うん。

小声で、

（今日は帰さない…。）と、唇を指で撫でてやれば

（…はい…。）

と、指で返してきた。

どこのラブシーンだよ！

小鳥のさえずりが聴こえる…。

目の前には全裸の千鶴：

> 連結中<

あれから夕方に、千鶴の手料理を食べてベッドに入った。お互いを
貪るように求め合い、溶けるように眠りについた。

「おきて…オサムさん…。」

お早う、千鶴…。

自然に舌を絡め合う。

>男のあさ…<

「…またする…?」

そう、まだ繋がってるのだ。

(うつうつ…!)

男の本能に負けた俺は、部屋に>>時間停止<<の結界を張り、千鶴の腰が抜けるまで求めてしまった…。

本当に良い女だ。千鶴が動けるようになったら、朝食にしようか…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7222n/>

世界の改変やろうか？

2011年2月6日20時52分発行